

平成 29 年度 第 2 回 サビ管・相談支援専門員合同意見交換会

アンケート集計結果（有効数：25 名）

内容に関して

とても良い	良い	まあまあ	悪い	非常に悪い
17	7	1	0	0

・相談支援専門員（サービス等利用計画）とサビ管（個別支援計画）の連携が重要であることを改めて実感した。

・その人の希望する暮らし方をしっかり引き出して頂くことで、自分の事業所のニーズに捉われすぎないで、全体の中で自分の事業所ができることを支援にしていかなければ…と思いました。

・「ストレングスに目を向けて考えること」意識して取り組みたいです。

・2 時間の研修であったが、集中出来るちょうどよい時間であった。

・利用者さんの可能性を広げられるような支援を目指したいと感じた。

・サービス等利用計画と個別支援計画のつながりを再認識し、また支援計画作成する上での大事な視点も確認できた。

・サービス管理責任者の計画をあまり見る機会がなく、常々見たいと思っていたのでよい機会であった。それを基に相談支援専門員が後追いのサービス等利用計画案を作成する流れの GW も実際にあることなので、面白いと思った。

・各々、試行錯誤されていることもわかりました。もっともっと協力しながら支援ができるのが理想です。様々な立ち位置の支援者がケースを話し合うのはその数だけ視点があり、勉強になると感じた。

・GW の導入時に白紙の模造紙に「その方の見立て」を自由に書くことがとてもよかった。G によっては人物の絵を描いてもおり、皆がその人のことを熱心にイメージしていたと思う。

・サービス等利用計画を出した後の個別支援計画を目にする機会があまりなかったので、これからは積極的に求めていき、「連携」をより意識していきたい。

・毎回、顔合わせの場になっており、地域のつながりができていると感じました。

・情緒面（例：友達を作りたい）を一番にあげる大切さを学びました

・利用者さんの話を聞いてくださっていますが、まだまだ前回とほぼ同じのサービス等利用計画が仕上がっているように思います。私たちの個別支援計画もご本人の願いや希望をかなえられるものにならなければいけないと思います。まだ、支援員のこうなってほしいという思い中心の個別支援計画になっているように思います。

・昨年から研修を続けて、少しずつ顔見知りになって、場が温もっていくのも早くなったと感じます。継続することの大切さを実感しています。

・色々な立場の人からの意見が聞けて良かった。1 つの視点だけで色々な視点を生かした計画を作っていきたい。

・サビ管になって間が無く、理解できなかつた部分があり難しかった。ただ、事業所のみで通用する計画書ではなく「生活を支えられる」という意識をもって計画作成していきたい。

・GW でいろんな意見を聞いて良かった。就労の G であったが、働くことのみを目標にしがちだが、それ以外が目標になってもよい等 いろんな視点があると思いました。

・事例提供者の立場で参加し、とても参考になった。新たな発見・支援の再確認につながったと思う。1つのケースを多数で協議する機会はとても良い。

・サビ管同士の連携も着目すべきだと思った。バラバラだと長期目標の達成が困難になるケースも多々あった。今後もサビ管連携は深めるべきだと思う。

・いろんな事業所のサビ管の方や相談支援専門員の方の考え方の違いや思いの違いの話を聞いたのが勉強になりました。

・個別支援計画とサービス等利用計画との連携の重要性を感じました。利用計画に本人の思いや希望、ストレングスといったものが十分に入っていないと個別支援計画を作成することがとても難しいことを体験できたのは貴重でした。

・相談支援専門員のアセスメント力や本人・家族との県警性の作り方など、スキルの向上、またサビ管の人たちと連携していく時間や機械の確保も大切な要素になると感じました。

・事例提供をさせていただいて、事業所以外の方の新鮮な目で見えていただき、新たな気づきも生まれました。利用者はもちろん関わってくださる事業所、家族に対して分かりやすいものでいけないこと。事業所内のスタッフに関わっていただく中で具体的な内容でないといけないことが見えました。自分の出したアセスメントシートを相談支援専門員の方が意図を組んでサービス等利用計画作成してくれてほっとしました。

・サービス等利用計画を個別支援計画におとした際に その人の生活を深く掘り下げる必要があると改めて感じました。本来ならもっと深くイメージして利用計画を作らないといけないんだなど。精進します。

・サビ管と相談支援専門員がストレングスを共有する時間があれば、視野が広がりますね。

・サービス等利用計画を基にニーズ整理をしていくこと、個別支援計画の作成につなげていくことは とても勉強になった。それぞれの事業所で視点が違うことは、支援計画作成時の参考になると思う。

・演習を通して、実際に個別支援計画を作成することができ、良い勉強になった。横のつながりの大切さも感じる事が出来ました。

・改めて事業所完結の支援計画になっている点を感じました。相談支援事業所他、様々な関係機関と細かい認識、方向性を本人と行っていく必要性を感じました。

・利用者さんの視点に立ってのニーズ整理やストレングスから作成する計画書がとても新鮮だった。ニーズ整理をする中で他事業所の取り組みなど聞くことが出来て参考になった。

今後研修で取り組んでみたいこと

・主訴が見えにくい方の事例検討

・サビ管さん主導の研修に参加したい。

・意見交換 例) 事業所での悩み など

・入所施設になりますが、既にサービス利用されている方の計画の見直しをしてみたい。大きな変化がないとケア会議がないので、施設外の方の意見も踏まえた計画を再度立ててみたい。

・相談支援専門員の方から見た事業所の視点や求めることなどを教えてほしい。

演習でのグループの振り返り

- ・利用者本位での視点が多く出た。
- ・利用者のとらえ方は似ている部分があった。
- ・訪問の支援計画はもっと細かい。

→しかし、広く作ったほうが見やすいというメリットも。

- ・今の支援計画は以前立てたものを中心になっている。

→重箱の隅をつつくような計画になっていた。

- ・本人の意向が分かりづらい方の計画にも有効。

・本人の希望に対して、事業所が何ができるか考えたい。昔は課題にのみ着目した処遇計画だったが、本人の喜びと一緒に実現できる かなえる 計画を目指したい。

・個別支援計画とサービス等利用計画の連動性を感じることが出来た。実際にもっと出来たらと思う。後追い計画は特に難しいな。

- ・個別支援＝事業所の強み（を活かせたら良い）
- ・実際にもこういった GW で本人の話が出来たらよい支援ができる。
- ・各サビ管が持っている情報が相談支援専門員ときちんとキャッチボールできれば。

→どういう支援するか？ばかりでなく、その前の本人の良いところ探しを大切にしなければならない。

- ・難しい。日頃からの連携が大切。

→演習を通じて経験を積んでいくことが必要（新人なので）。こうしたことを利用者に還元したい。

- ・ケースを提出し、本人のアセスメントを再確認でき、ストレングスを再認識できた。
- ・個別支援計画は具体性をもって誰が見てもわかる計画にしていかなければ。

・事業所単位での動きになってしまい、連携しなくてはと思っても後回しになっているが、細かいニュアンス等会話や連携。事業所のエゴで終わらないようにしていきたい。社会との接点を含めた内容を意識していきたい。

- ・サービス等利用計画と個別支援計画をリンクさせながら進めていきたい。

・世話人やスタッフにどこまでお願いすれば…と悩んでいたが、みんなでやろうという方向に向かいたい。